

テーマ・フォーカスシリーズ③



グローバル・メガピース

株式戦略部分を支える“クッション役” 「インカム債券」

「グローバル・メガピース」は、3つのテーマに基づき、6つの投資戦略^(注)に着目し、社会の構造変化（メガトレンド）を捉え、資産の成長をめざす運用を行なっています。

本資料では、3回にわたり、各テーマの着眼点ならびに各投資戦略をご紹介します。

「グローバル・メガピース」を支える3つのテーマ

技術革新
イノベーション
株式
中長期の成長テーマに関連する企業

伸び盛り
アーリー・
ステージ株式
業種を問わず
投資魅力の高い企業



クッション
インカム債券
インカム収益によって
株式戦略部分を支える“クッション役”

今回の
フォーカステーマ

「グローバル・メガピース」は、
3つのテーマと6つの投資戦略^(注)
で構成されています。

< 基準価額の推移 >

(注) 戦略は適宜見直しを行ないますので、追加、変更される場合があります。

(2018年2月1日(設定日)～2018年7月31日)



2018年7月31日現在

基準価額 9,612円

純資産総額 250億円

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ご参考：当ファンドの運用状況

各戦略の推移を見ると、「USグローイング・ベンチャー戦略」「グローバル・フィンテック戦略」が堅調に推移しながらも、6月以降の株式戦略は、総じて価格変動の大きな展開が続きました。

これは、6月後半以降、米中貿易摩擦への懸念が強まったことや、それに伴う円高進行などが背景となっています。7月下旬には、米主力IT企業の決算発表を受けた米ハイテク・IT関連株売りが、日米の新興株などに影響しましたが、「グローバル・ロボティクス戦略」や「新興国リード・ストック戦略」、「グローバル・インカム戦略」は底堅く推移し、当ファンドの基準価額を下支えました。

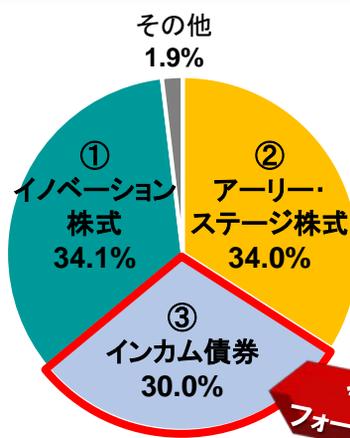
＜各戦略と当ファンドのパフォーマンス＞
(2018年2月1日(設定日)～2018年7月31日)



※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※各戦略のパフォーマンスは、投資対象である投資信託証券における税引前分配金再投資ベースの基準価額です。

ポートフォリオの状況 (2018年6月末現在)



※資産構成比率は当ファンドの純資産総額比です。

＜ポートフォリオの内訳＞

＜比率＞

①イノベーション株式		34.1%
	グローバル・ロボティクス戦略	16.9%
	グローバル・フィンテック戦略	17.2%
②アーリー・ステージ株式		34.0%
先進国	ジャパン・グローイング・ベンチャー戦略	8.7%
	USグローイング・ベンチャー戦略	8.7%
新興国	新興国リード・ストック戦略	16.7%
③インカム債券		30.0%
	グローバル・インカム戦略	30.0%
その他		1.9%

※各戦略への投資は、投資信託証券を通じて行ないます。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



テーマ
インカム債券

インカム収益により株式戦略を支える 「インカム債券」



「グローバル・メガピース」では、中長期的な資産運用をより有効なものとするため、「イノベーション株式」「アーリー・ステージ株式」の2つの株式テーマに、「インカム債券」としてグローバル・インカム戦略を取り入れることで、2つの株式戦略の下支えを図ります。

2つの株式テーマを下支えする“クッション役”

＜グローバル・インカム戦略のねらい＞

2

インカム
利子収益の着実な積み上げ
を図り、
中長期的なリターンの向上
をめざす

1

世界のさまざまな債券
への投資により
収益機会を発掘

3

局面ごとに投資債券を
機動的に変更することで、
下振れリスクを抑制

「グローバル・メガピース」で期待される当戦略の効果

インカム収益による
パフォーマンスの押し上げ効果

株式戦略に比べ
安定したパフォーマンスによる
基準価額変動の抑制効果

原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り・円買いの為替ヘッジを行いません。

※為替ヘッジによって為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なう際、対象通貨の短期金利より円の短期金利が低い場合には、為替ヘッジコストがかかります。また、対象資産の通貨と異なる通貨で為替ヘッジを行なった場合には、各通貨の値動きが異なることから、十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



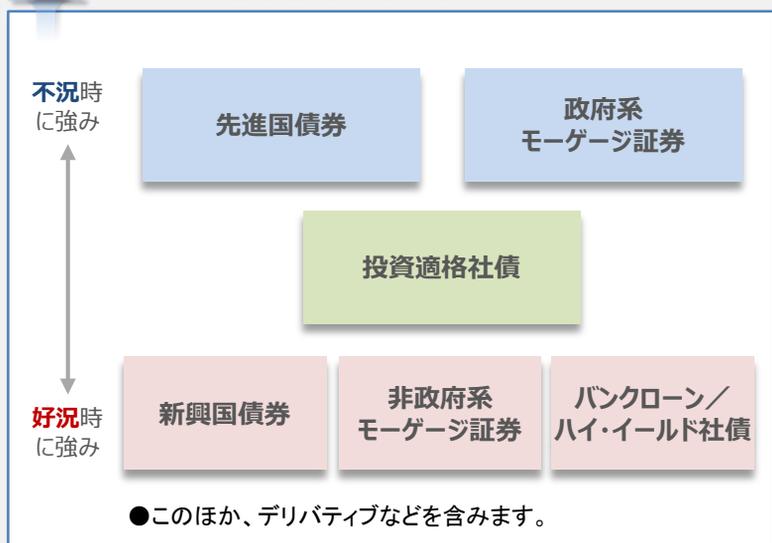
グローバル・インカム戦略

世界の債券から魅力的な利回り獲得を図る 「グローバル・インカム戦略」

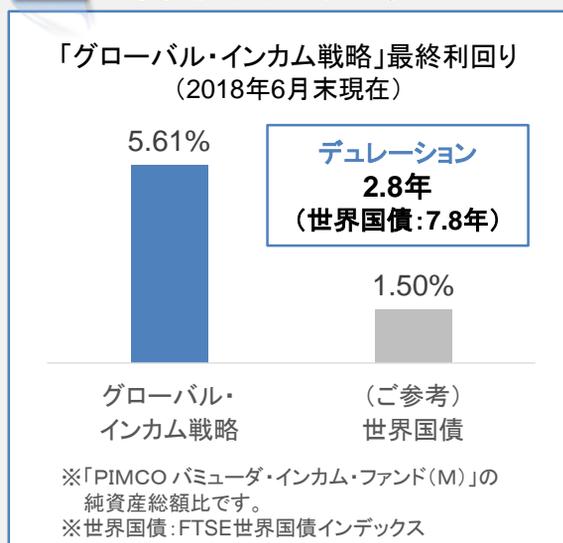


□ 「グローバル・インカム戦略」では、世界各国（新興国を含みます。）の債券などに実質的に投資を行ない、インカムゲインの最大化と長期的な値上がり益の獲得をめざします。

1 「グローバル・インカム戦略」の 主な投資対象

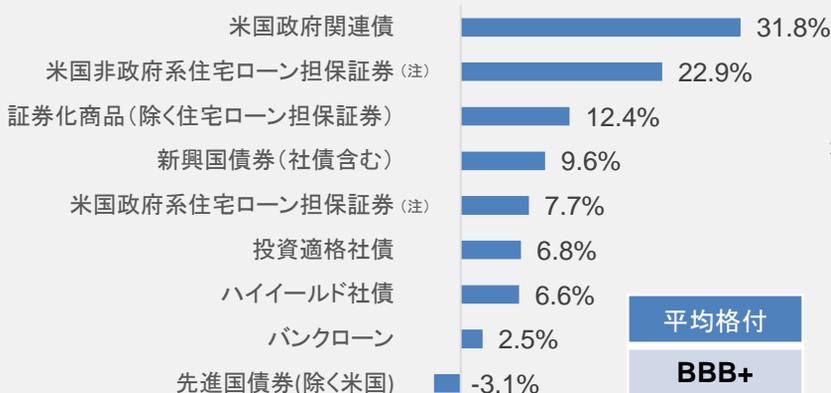


2 魅力的な 利回り水準

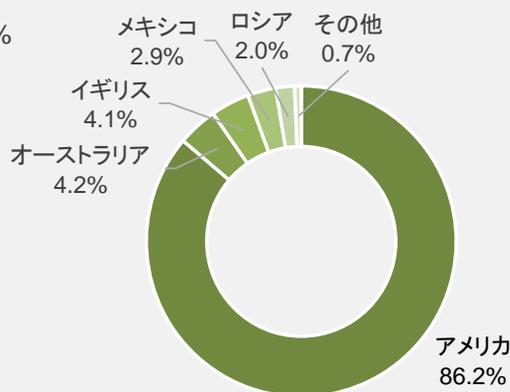


「グローバル・インカム戦略」のポートフォリオ (2018年6月末現在)

<債券種別比率>



<国別比率>



(注)住宅ローン担保証券: 上記「主な投資対象」の各モーゲージ証券に該当します。

※「PIMCO バミューダ・インカム・ファンド(M)」の純資産総額比です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



リスク抑制のため大胆な運用を行なう 「グローバル・インカム戦略」



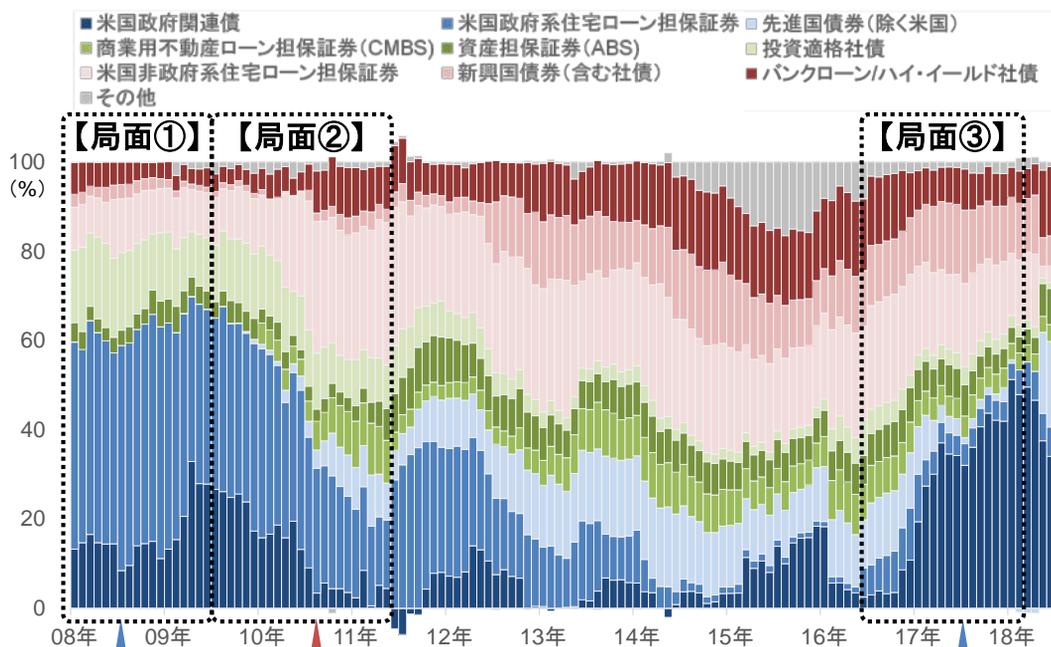
グローバル・インカム戦略

- 投資する債券は、市場環境に応じて、好況時に強みを持つ「攻め」の債券と、不況時に強みを持つ「守り」の債券の配分を機動的に変更します。これにより、パフォーマンスの下振れを抑え、市場環境に左右されにくい安定的な投資成果をめざします。

3 下振れリスク抑制をめざし、市場環境に応じて投資債券を機動的に変更

ご参考

PIMCOのストラテジック・インカム戦略における債券種別セクター配分の推移
(2008年1月末～2018年6月末)



【局面①】2008～2009年

米住宅バブル崩壊を事前に予想していたことから、信用力や流動性があり、より質の高い債券を重視し、「守り」の資産の組み入れを増加

【局面②】2009～2011年

世界的な金融緩和が進むなか、資産価格の押し上げが期待されると判断、米国非政府系住宅ローン担保証券など「攻め」の資産の組み入れを増加

【局面③】2017～2018年

世界経済の回復基調を受け、価格が十分に上昇した資産を一部売却、将来の投資機会に備えて、流動性の高い「守り」の資産にシフト

出所:PIMCO

※上記は、グローバル・インカム戦略の運用の長期的な特徴をつかんでいただくために、当ファンドの投資対象である当該投資信託証券が含まれる「ストラテジック・インカム戦略」コンポジットの代表口座である米国籍ファンド「PIMCO Income Fund」のデータをご参考として掲載しています。当該投資信託証券の運用開始以前の内容が含まれており、また当該投資信託証券の実績ではありません。当該投資信託証券とは、対円で為替ヘッジを行なうという点が主に異なります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



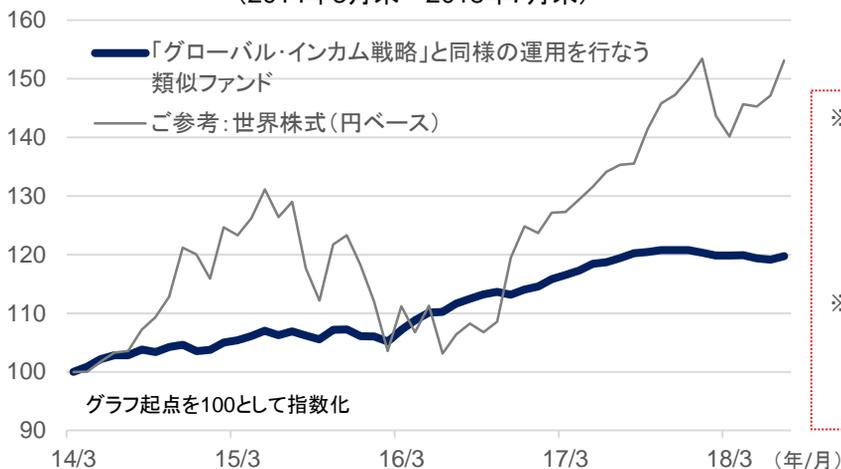
グローバル・インカム戦略

ご 参 考



株式市場が大きな変動に見舞われた局面においても 安定的なパフォーマンスを実現

グローバル・インカム戦略と同様の運用戦略を用いる
類似ファンドのパフォーマンス
(2014年3月末～2018年7月末)



※左記データは、グローバル・インカム戦略における投資信託証券の運用について理解を深めていただくために、実質的に同様の運用戦略を用いる既存ファンド(類似ファンド)の過去の運用実績を示したものであり、当ファンドの投資対象である当該投資信託証券の将来の運用成果などを約束するものではありません。

※また、当該投資信託証券(2018年2月設定)が類似ファンドと同様のリターンやリスクを達成することを約束するものではありません。運用資産の規模、設定・解約に伴う資金流入額なども異なるため将来の運用成果も異なります。

世界株式: MSCI ACワールド指数(配当込み、米ドルベース)を日興アセットマネジメントが円換算。
※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。

世界有数の運用資産残高を誇るPIMCOのインカム戦略

PIMCOインカム戦略の運用資産残高
(2007年3月末～2018年7月末)



当ファンドが投資対象とする外国投資信託と同様の運用戦略を用いたPIMCOインカム戦略の複数のグローバル個別口座の運用残高の合計。円換算金額は、2018年7月末の為替レート(1米ドル=111円)。

グローバル・インカム戦略では、 PIMCOの運用力を活用^(注)

- PIMCOは、1971年に設立された米国の資産運用会社で、世界最大規模のアクティブ債券運用会社の一つです。
- 精度の高さで定評のあるマクロ経済分析に基づく運用スタイルとリスク管理を得意とし、運用では、世界的に高い評価を得て数多くの賞を受賞しています。
- 各国の首脳・政策担当者、国際機関等との強いパイプを持つなど、情報入手の優位性を有しています。

PIMCO

(注) 資料作成日時点。
各戦略の運用は、今後変更となる可能性があります。

PIMCOほか、信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



「グローバル・メガピース」のめざすもの

魅力的な株式エンジン×インカムクッション による 株式中心の前向きバランスファンド

特徴ある戦略を選定し、組み合わせることで、各戦略の強みを中長期の資産形成手段に活かす「グローバル・メガピース」

- 「グローバル・メガピース」の5つの株式戦略は、魅力的な収益期待が高い投資対象である分、**短期的な価格変動も大きくなりやすい**傾向にあります。
- ただしこれらは、社会の構造変化（メガトレンド）を捉えた成長が期待されることから、当ファンドでは、**全体の約7割を株式戦略**とするとともに、**インカム債券戦略を活用し、中長期的な資産成長**を図ります。

「グローバル・メガピース」と各戦略の月次騰落率
(計算期間:2018年2月*~2018年7月)

2018年2月	2018年3月	2018年4月	2018年5月	2018年6月	2018年7月
					新興国リード 5.1%
		USグローバル 4.0%	日本グローバル 5.5%		ロボティクス 2.7%
		フィンテック 1.4%	フィンテック 5.3%		フィンテック 2.4%
		新興国リード 1.0%	USグローバル 3.5%		Gメガピース 1.6%
	日本グローバル 2.9%	ロボティクス 1.0%	ロボティクス 1.0%	USグローバル 1.4%	USグローバル 0.6%
	インカム債券 0.3%	Gメガピース 0.1%	Gメガピース 0.8%	フィンテック 0.8%	インカム債券 0.6%
インカム債券 -0.4%	USグローバル -1.8%	インカム債券 -0.5%	インカム債券 -0.1%	インカム債券 -0.4%	日本グローバル -2.5%
USグローバル -2.5%	Gメガピース -1.9%	日本グローバル -6.1%	新興国リード -5.0%	Gメガピース -1.4%	
フィンテック -2.7%	フィンテック -3.2%			日本グローバル -2.5%	
Gメガピース -3.1%	ロボティクス -3.9%			ロボティクス -3.0%	
新興国リード -5.2%	新興国リード -4.2%			新興国リード -3.9%	
ロボティクス -5.7%					
日本グローバル -6.8%					

プラス
マイナス

※ファンド名および戦略名は、一部省略して表記しています。
※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
※各戦略のパフォーマンスは、投資対象である投資信託証券における基準価額です。

*2月は、設定日から月末までの騰落率

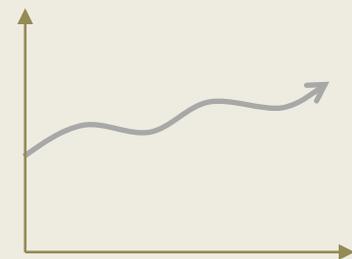
魅力的な5つの株式戦略

世界有数の債券戦略

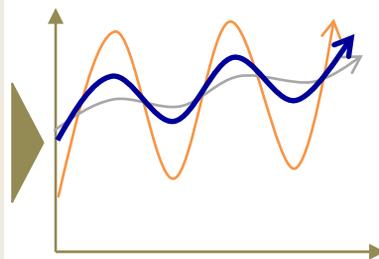
グローバル・メガピース



各戦略は、魅力的な収益期待がある分、それ単体では、**上がる時は上がる一方、下げる時にマイナスも大きく...**



基準価額の**変動抑制効果**に加え、インカム収益の積み上げによる**パフォーマンスの下支え**が期待されます



株式戦略を中心に据えながら、債券戦略で補完することで、しっかり中長期で殖やす工夫を凝らす

●上図はイメージです。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1** ^{メガトレンド} 社会の構造変化を捉える2つの株式テーマに着目し、収益の獲得をめざします。
- 2** 2つの株式テーマに債券を加え、インカム収益の獲得をめざします。
- 3** 各戦略に基づく投資は、日興アセットマネジメントが厳選したファンド（投資信託証券）を通じて行ないます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項

リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。

なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式および債券などを実質的な投資対象としますので、株式および債券などの価格の下落や、株式および債券などの発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

- 【価格変動リスク】
- 【流動性リスク】
- 【信用リスク】
- 【為替変動リスク】
- 【カントリー・リスク】
- 【デリバティブリスク】
- 【未上場株式などの組入リスク】
- 【延長リスク／期限前償還リスク】
- 【期限前償還に伴う再投資リスク】

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めいただくことを目的として日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡します。内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お申込メモ

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
ご購入不可日	購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日に該当する場合は、購入のお申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託期間	2028年1月25日まで(2018年2月1日設定)
決算日	毎年1月25日(休業日の場合は翌営業日)
ご換金不可日	換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日に該当する場合は、換金請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

手数料等の概要 お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時手数料率は、 <u>3.24%(税抜3%)</u> を上限として販売会社が定める率とします。 ※ 分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬	純資産総額に対して年率1.809%(税抜1.675%)以内を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。信託報酬率の内訳は、以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 当ファンドの信託報酬率: 純資産総額1,000億円以下の部分..... 年率1.6632%(税抜1.54%) 純資産総額1,000億円超の部分..... 年率1.4472%(税抜1.34%) 投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率: 年率0.1458%(税抜0.135%)以内 受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
その他費用	目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。 ※ 組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アジア リミテッド(投資助言) ピムコ ジャパン リミテッド
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] http://www.nikkoam.com/ [コールセンター] 0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○		
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○	○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	

(資料作成日現在、50音順)



当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。